

アイヌタイムズ

第16号

アイヌタイムズ第16号(2005年12月20日発行)からアイヌ語抜粋

著者: 横山裕之

先住民族 ウタラ エスペラント アニ ウコイソイタク 先住民族がエスペラントで対話してます

(アイヌ イタク [アイヌ語])

(日本語)

先住民族 ウタラ アナク トウンチ サク ノ エスペラント イタク アニ ウコイソイタク クスネ。

オランダ モシリ タ シネ 学校 アン ワ、オロ タ 英語、ドイツ語、エスペラント イタク アエパカシヌ。1998 パ 5 チュプ タ、中央アメリカ ウン コスタリカ モシリ オロワ シネ 先住民族 エク ワ、ネ 学校 経営者 (サパネクル) オロ タ アラパ。ネ 経営者 アナク ベシー シェディー セコロ レヘ アン。

ネア クル エネ ハウエアン ヒ:

オヤ 先住民族 ウタラ クコイソイタク ルスイ コロカ、ピリカノ クイエ カ エアイカプ クス ケラムペカマム コロ カン ワ。

ネ 経営者 アナク ネア クル イエヒヌ ワ、エネ ヤイヌ ヒ; クコロ 学校 オロ タ、イチエン サク ノ エスペラント イタク ネヤ インターネット ネヤ アエパカシヌ ヤク ピリカ ナンコロ。ネノ イキ ヤクン、先住民族 ウタラ ウコイソイタク エアシカイ ナンコロ。

オロワノ 1998 パ 10 チュプ タ アメリカ オロ タ 世界先住民族会議 アン ヒ タ、"オヤ 先住民族 ウタラ トウラノ ウコイソイタカンロ!" セコロ、ネ 経営者 ハウエアン。

オロワノ 1999 パ 9 チュプ タ、ネア クル コロ 学校 オロ タ エスペラント イタク ネヤ インターネット ネヤ アエパカシヌ ルウエネ。

トウン イカシマ ホツネン ネ ワ、トウ エ ホツネ 先住民族 ウタラ イヨロツ パ。

先住民族が通訳なしでエスペラントでお互いに話し合いをしようとしています。

オランダ国に、とある学校があり、そこでは英語、ドイツ語、エスペラント語を教えています。1998年5月に、中央アメリカのコスタリカ国から、一人の先住民族が来て、その学校の経営者の所に行きました。学校フ経営者は、ベシー・シェディーという名前です。

その先住民族は、以下のように言いました: 他の先住民族と私は会話したいのだが、ちゃんと言うこともできなくて困っているんですよ。

その経営者はその人の言ったことを聞いて、次のように考えました。私の学校で、お金なしでエスペラント語やインターネットを彼らに教えるといいのでは。そのようにしたなら、先住民族たちが会話できるだろう。

そして、1998年10月にアメリカで世界先住民族会議があった時に、「先住民族どおしで色々な話しをしましょう!」と、その経営者は言いました。

そうして、1999年9月に、その経営者の学校で、その人たちは、エスペラントとインターネットを教わりました。

22人、18の先住民族が集まりました。

ネロク ウタラ アナクネ ウサ オカ モシリ オロワ アラキ ルウエ ネ。

ネ モシリ アナク、ニューギニア、モロッコ、ルワンダ、ブルキナファソ、ロシア、アラスカ、コスタリカ(中米)、グラテマラ(中米)、チリ、インド、。。。ネ。

ネロク ウタラ ネ 学校 オロ タ 21 ト パクノ アエパカシヌ ルウエ ネ。

ホシキノ アン 7 ト ウトウル タ、クンネイワノ オヌマン パクノ エスペラント イタク アエパカシヌ。

オトウタヌ アン 7 ト ウトウル タ、ホームページ カラ ワ、オロ タ ヤヨルシペ エスペラント イタク アニ ヌイエ ルウエ ネ。

イヨッタ イヨシノ アン 7 ト ウトウル タ、ネ ホームページ オロ タ エスペラント イタク アニ ウコイソイタク カ キ、学校 オロ タ ウトウラノ ホリツパ カ シノツチャ カ キ ルウエ ネ。

ネロク ウタラ ポロセレケヘ アナクネ、テ ワノ カ エスペラント イタク アニ ウコイソイタク ルスイ ワ セコロ ハウエオカ ルウエ ネ。

1999 パ 11 チュプ ケセ ワノ、カンナスイ先住民族 トウン イカシマ ワニウ ネ ワ、ネ 学校 オロ タ パイエ ワ、エスペラント イタク ネヤ インターネット ネヤ アエパカシヌ。

ネ 経営者 アナクネ、250 パクノ アン 先住民族 ウタラ アラキ ヤク ピリカ セコロ ハウエアン。

エイ ネヤ オヤ イタク ネヤ アニ ウコイソイタク ヤクネ、ピリカノ エアシカイ ウタラ カ オカ コロカ、エアイカプ ウタラ カ ポロンノ オカ ナンコロ。エスペラント ネ ヤクン、ア ッパケ ワノ ウタラ オピッタ トウラノ アエパカシヌ エアシカイ クス ピリカ クニ クラム。

エスペラント イタク イエ ウタラ アナクネ、モシリ エピッタ オカ ルウエ ネ。

ネ イタク アエネパカシヌ ヒ ワノ、ネロク ウタラ クトクイエコロ エアシカイ クス、シノ ケ ヤイコブンテク。

ナア エスペラント オルシペ エチヌ ルスイチキ、ウンヌレ ヤン!

hokkaido_esp_ligo@yahoo.co.jp
北海道エスペラント連盟

その人たちは色々な国から来ました。

その国は、ニューギニア、モロッコ、ルワンダ、ブルキナファソ、ロシア、アラスカ、コスタリカ(中米)、グラテマラ(中米)、チリ、インド、...です。

彼らはこの学校で21日ほど学びました。

最初の7日間には、朝から晩まで、エスペラントを勉強しました。

その次の7日間には、ホームページを作り、そこに自分たちのことをエスペラントで書きました。

最後の7日間には、そのホームページの中でエスペラント語で会話したりもし、学校で一緒に踊ったり歌ったりもしたのです。

この人たちの多くは、これからもエスペラントで会話したいと言っています。

1999 年 11 月末から、再び先住民族が12人で、その学校に行き、エスペラント語やインターネットを教わりました。

その経営者は、250ほどの先住民族が来るといいと言いました。

英語や他の言葉で会話するならば、ちゃんとできる人もいるけれど、できない人もいます。エスペラントなら、最初からみんなと一緒に勉強することができるので素晴らしいと私は思います。

エスペラントを話す人は、世界中にいます。

私は、この言葉を勉強してから、その人たちと親しくなり、とてもうれしく思っています。

さらにエスペラントの話を聞きたいならば、私たちに知らせてください。

hokkaido_esp_ligo@yahoo.co.jp
北海道エスペラント連盟

アイヌタイムズをご購入していただける方がお知り合いでいらっしゃいましたら、お声をかけていただけると大変うれしく思います。

購読連絡先: 〒055-0101 北海道平取町二風谷 80-25 萱野志朗(宛)
購読料: 1500 円 (4 号ごと／アイヌ語版のみ)
2300 円 (4 号ごと／アイヌ語版と日本語版)

読者からの投稿募集:

(連絡先): 〒047-0033

浜田隆史(宛)

北海道小樽市富岡 1-32-136

電子メール: otarunay@yahoo.co.jp

ウェブページ: <https://otarunay.at-ninja.jp/taimuzu.html>

注)アイヌタイムズの著作権は、アイヌ語ペンクラブにあります。

注)1. 赤字は、アイヌ語です。

2. 赤字のイタリック文字は、主に日本語由来のアイヌ語外来語です。